

建築文化賞

環境に配慮した建築物

先端技術と建築環境との幸運なシナジー

建築主：タクボエンジニアリング株式会社
設計：清水建設株式会社一級建築士事務所
施工：清水建設株式会社千葉支店
所在地：東金市丘山台2-7

タクボエンジニアリング 東金テクニカルセンター



南側全景

施主である企業の極めてユニークな業態と技術が、この建物の特徴を決定したといっていよう。部品等の塗装ロボットの世界的な技術革新をリードし、それによって、私たちの身の回りにある多くの製品の表面の質とイメージが革命的に進化した。そうした企業が、工場+研究所を建てるとうなるか、その一つの回答がここにある。不整形で斜面が迫る工業団地の一角を敢えて選び、その不利な条件を逆手にとって工場、開発研究所、事務所機能が一体化したコンパクトな延床約4,000㎡、2階建ての建築が生まれたのである。

厳しく見れば、ここに見られる環境に配慮した建築的な要素技術はとりわけ目覚ましいとは言えない。垂直面に設置された太陽光発電パネル、屋根排気ファンを利用した自然換気／通風、トップライトによる昼光利用、雨水利用などは既に一般的に普及しているものであり、これらがこの建築の価値を決定付けているとは言いがたい。また、難燃加

工を施しロビーの天井材に用いた山武杉の間伐材、屋根の曲面化による建物表面積の縮小、将来のコケによる屋根の全面緑化などの象徴的な取り組みにしても、それらが果たす環境負荷削減効果には疑問符を付けざるを得ない。

それでも、この建築が発する意図や空間の力強さが、工場建築に見られがちな凡庸なローコスト仕様をはるかに凌駕している。発注側の技術と産業文化に資する稀有な思いと戦略が、設計者、施工者に誠実に受け止められた結果であるに違いない。今後の成熟とともにどのような建築環境が育っていくのか、注目に値する作品である。

(岩村和夫)



エントランスホール



全景

(撮影/石黒写真研究所)